

#美術館は心の病院

Interview Q 猪熊弦一郎はMIMOCAをつくるにあたり「美術館は心の病院」という考えを大事にしていました。
あなたは、MIMOCAのどんなところが「心の病院」だと思いますか？

長原孝弘さん A

MIMOCAの初代副館長。丸亀市職員としてMIMOCA設立の中心的役割を担った。計画中から開館後まで、猪熊弦一郎本人と対話を重ね、その数は東京で50回、丸亀で20回におよんだ。

「美術館は心の病院」この言葉を聞いたのは、1987年に美術館の協力をお願いするため上司と猪熊先生をお訪ねした時です。先生は初対面の私たちに自分の考える美術館像について熱心に話されました。目から鱗が落ちるような話でした。そして6年後、急逝される直前、二日間に亘って私達スタッフにミモカが果たすべき役割について様々な話をされました。その中でも「ミモカが大勢の人の心を癒す場所であってほしい」と言われたのです。

先生は「芸術はその人そのものである。」とよく言われました。先生を知る人達は異口同音に「猪熊さんは真摯で純粋で勇気のある芸術家だったが、何より日本に居る時はもちろん、ニューヨーク時代も本当に多くの人に愛情を注ぎ、お世話になった方は数知れない。」ミモカを設計した谷口先生も猪熊先生とは長い交流がおありでした。

猪熊先生の作品はもちろん、ミモカへの熱い思いと先生の人となりが建物のあらゆる空間に生きていて、私たちを癒してくれます。まさしく「心の病院」です。

小学校時代の親友の元木潔さんの話です。「猪熊君は絵の天才だったが、それでいて誰にでも優しく皆から慕われていた。美術館を初めて見たとき、昔のあの猪熊君そのものだと感じた。館内の色々な所にも優しい猪熊君が居た。」

MIMOCA職員 A

今まで、毎日慌ただしい生活の中で、美しさや感動を受けることが少なかった中、MIMOCAに来て、非日常の美の世界に踏み込むことで、これまでの慌ただしい生活感と違う感情が生まれてきた(M)／ゲートプラザ。煮詰まったときに星座に座ってしばらく壁画をながめていると、もう一回仕切り直そうかという気になる。たぶん、壁画の可愛さとともにほほぼれして集中できると、適度な大きさでシンプルな空間が清々しくて気持ちを切り替えられるのだと思う(M)／猪熊弦一郎をはじめ、鋭い感覚をもった同時代のアーティストたちによる表現に感動したり、驚いたり、心を揺さぶられたり、別の価値観に触れたりすることで、それまで心の中を占めていた迷いや悩みが相対化され、軽くなるところ(T)／ゲートプラザの広さとワクワク感がいい、建物自体がピックリ箱!のお客様の声をいただきました。駅が近く誰でも入りやすい場所にあり、中に入るとゲートプラザからの期待を裏切らず非日常的な楽しい空間を感じていただけるところが心の美術館だと思います。元気になった心は明日への活力になります!(T)／大階段を三階から下に降りて行く時、遠くまで見えて広くゆったりした気分になります。上からガラスを通してきれいな光と影が射してくるところも気分がよくなります(H)／MIMOCAでは、子どもから大人まで自由に造形体験ができる機会がたくさんあります。ちょっと心が疲れたときも、手を動かしているうちにいつの間にか夢中になり、作品が完成するころにはなんだか気持ちがスッキリ! 誰もが時間を忘れて遊べる、素敵な場所だなと思いました(K)／2階展示室Bにあるソファ。たまに東京からフライと美術館に来ても、旅の最後、そこに座って、丸亀をあとにするのがお決まりでした。あの瞬間、いつも心がゆったり暖かなもので満たされた気持ちになりました。

みんなの「#美術館は心の病院」エピソード教えてください

上記の質問について、みなさんのエピソードを募集します。展覧会や催し物、場所、もしくは個人的な体験など、ぜひ教えてください。ご応募いただいたエピソードは、当館SNSでシェアしたり、展示室で閲覧できるようにしてご紹介します。各種SNSや当館ウェブサイトよりご応募ください。詳しくは本企画ウェブサイトをご覧ください。

<http://www.mimoca.org/ja/events/2018/07/14/1827/>

◎丸亀市猪熊弦一郎現代美術館からのお知らせ

当館では、長寿命化計画に基づく工事に伴い休館を予定しております。休館につきましても、丸亀市民に向けた出張講座やワークショップ等については引き続き実施いたします。館外での活動を通して、よりMIMOCAのことを知っていただくとともに、今後とも長く愛していただけますことを願っております。



常設展

美術館は心の病院 猪熊弦一郎とMIMOCA

An Art Museum is a Hospital for the Heart
— Genichiro Inokuma and MIMOCA



2018
年
7月
14日
土
—
9月
30日
日
【会期中無休】

「心の悩みをみんなここで治してください。」

猪熊弦一郎

©公益財団法人ミモカ美術振興財团

【主 催】丸亀市、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財团

TEL / 0877-24-7755 FAX / 0877-24-7766
URL / <http://mimoca.org> Mail / mimoca_info@mimoca.org
©丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 / 公益財団法人ミモカ美術振興財团 2018
Marugame Genichiro-Inokuma Museum of Contemporary Art 80-1 Hama-machi, Marugame-shi, Kagawa 763-0022 JAPAN

美術館は心の病院

私事ですが、筆者のMIMOCAとの出会いは、2007年度のマルレーネ・デュマスの個展でした。同時代・同性の作家が自分の考えを持って表現している姿に勇気付けられ、この体験がきっかけで現代美術に興味を持ち、自分の世界が広がりました。その後、縁あってMIMOCAの職員となってから知ったのが、猪熊弦一郎(1902-93)が残した「美術館は心の病院」という言葉です。

美術館で良い作品を見たり、気持ちのよい空間に身を置いたりすることは、心を癒し新鮮な刺激を受け、生きる活力を得る機会になります。猪熊は、現代社会において美術館は「心の病院」として欠かせない存在になると考えていました。そんな「心の病院」を実現するため、立地から建築、事業内容、調度品に至るまで丸亀市と猪熊とで協議を重ねてMIMOCAが形づくられました。

まず、当館の計画は1987年10月に発表されました。当時、全国的に地方の公立美術館がつくられており、加えて香川県では、1988年の瀬戸大橋開通を前に控え商業施設等の開発が進められていました。このような状況で丸亀市は、街づくりの拠点となる特徴ある美術館をつくりたいと考えました。そこで、丸亀とゆかりのある画家・猪熊弦一郎に協力をあおぎ、1989年の市制施行90周年記念事業として計画を進めることになったのです。

駅前美術館

丸亀市が用意したいくつかの候補から、猪熊は迷わず駅前を選びました。交通の便が良い駅前に美術館があれば、人々は気軽に何度も美術館に立ち寄ることができます。

美しい空間

「心の病院」となる美術館には、身を置くだけでリフレッシュできる、日常ではないような美しい空間が必要です。建築に精通する猪熊は、信頼を寄せる建築家・谷口吉生(1937-)に設計を依頼し、「おおきなスケール感がある建築で、光がよければ、あとは一切何も言わない」*1と

言ったそうです。二人はしっかりと話し合ってMIMOCAの理念を共有し、それを谷口が建築に反映しました。そして、広々としてシンプルで、光あふれる美しい空間が完成しました。また、猪熊は谷口の手がける空間で自分にどんなことができるのか考え続け、調度品やトイレのマークなどたくさんのアイデアを出しました。MIMOCAの空間には猪熊の考えがすみずみまで行き渡っているのです。

現代美術館

猪熊はMIMOCAが「現代美術館」であることを重視しており、「ただなんでも絵をここへ並べるんじゃないんです。コンテンポラリー、今の、表現したものを作りこなしていく特殊な美術館を作ってるわけですね」*2と語りました。今を生きるアーティストが、自分自身に向き合い、深く考えて生み出した作品には、アーティストの視点を通じた今の時代があらわれています。中でも優れた作品には、これまでにない新しいものの見方や考え方があります。そんな作品に出会い、これからを生きるためのヒントや勇気を得られる場所が「現代美術館」であり、「心の病院」なのです。

子どもたちのために

猪熊はMIMOCA開館時に「子供たちの美術教育など、美のわかる人を作ることが、本当の平和を築くことになると信じます」*3と述べました。

心を開いて様々なことに興味を持つことで、たくさんの美しいものに出会えます。美しいものに共感する心は、その人の人生を豊かにします。感受性の強い子どもにとっては、たった一つの刺激でもいろんな影響があります。そのような体験をすることが、美しいものに共感する心の土台になるとを考えていたからこそ、猪熊は子ども向けの事業に力を入れました。子どもの観覧料無料にはじまり、当館は現在もワークショップや鑑賞教育に取り組んでいます。

猪熊弦一郎の顕彰

当館は、猪熊が丸亀市に寄贈した約2万点にのぼる作品を所蔵して

います。常設展では、時代やモチーフなどでテーマを設定して、入れ替わながら所蔵品を紹介しています。MIMOCAではいつでも猪熊の作品を見られて、訪れるごとに猪熊の画業を様々な視点で知ることができます。また、企画展でも年に一回ほど猪熊の個展を開催し、常設展よりも大きな規模で猪熊の画業を掘り下げて紹介しています。90歳で亡くなるまで多くの絵を描き続け、パブリックアートやデザインなど多様な仕事も手掛けた猪熊の画業には、今なお新しい発見があるのです。

猪熊の思いを受け継ぎ、当館は今後も活動してまいります。MIMOCAが皆様の「心の病院」となれば幸いです。最後に猪熊の言葉を紹介します。

「もう、誰にでも親しまれるね、みんながここへ来て遊んでもらって。それで新しい美っていうものがどういうものか、だんだんわかっていたくようなね、そういう美術館になりたいと思う。これはもう、美術館っていうのは、だいたい襟を正してね、行くようなもんだと思って。そうじゃなくて、気楽に来て。ここにはコーヒーもありますよ。サンドイッチも食べられるようになりますし。休むいいソファもみんな置いてあるから。そこでね、ゆっくりして、リラックスして。自分の悩みを何もここで流してしまったらしいんですよ。だから、美術館っていうのは、むかしで言えば、まちにある教会の役目。心の病院です。美術館は心の病院。心の悩みをみんなここで治してください。そういうことです。」*4

宇川 亜澄

(丸亀市猪熊弦一郎現代美術館／公益財団法人ミモカ美術振興財団)

*1:「設計者 谷口吉生に聞く」聞き手:古谷誠章、『エスキスシリーズ4 建築を見る 谷口吉生「丸亀市猪熊弦一郎現代美術館・図書館』2001年6月10日発行 彩国社 p.10

*2:1993年5月14日 猪熊弦一郎が亡くなる3日前にMIMOCAの職員に語った話

*3:『HOTLINE』、『月刊美術』1992年1月号 p.94

*4:1991年11月22日 MIMOCA落成式の後、猪熊弦一郎がインタビューで語った話

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 沿革

1987年(昭和62年)10月	丸亀市が市制90周年事業として市立猪熊弦一郎記念美術館(仮称)の建設を発表
1988年(昭和63年)11月	美術館準備室設置
1989年(平成元年)12月	美術館建設工事起工式 猪熊弦一郎から丸亀市へ「夜」「猫に寄せる歌」「Two Shores A」等、第1回分として作品1000点を寄贈
1991年(平成3年)3月	定礎式と壁面「創造の広場」除幕式 猪熊弦一郎に丸亀市名誉市民の称号が贈られる(丸亀市第1号)
6月	美術館建設工事竣工
9月	丸亀市美術館条例制定
10月	美術館の愛称が「MIMOCA」に決定
11月	落成式 一般公開・「開館記念展 猪熊弦一郎展」開催
1992年(平成4年)5月	丸亀市長との約束に基づき猪熊弦一郎から所有する作品等を市に寄贈する主旨の文書提出
1993年(平成5年)4月	財団法人ミモカ美術振興財団設立 猪熊弦一郎、東京にて死去(17日、満90歳)
9月	第34回建築業協会賞受賞
1994年(平成6年)5月	第7回村野藤吾賞受賞
1995年(平成7年)4月	MIMOCA FRIEND(ミモカフレンド)発足
1996年(平成8年)4月	第5回公共建築賞(主催:社団法人・公共建築協会)、特別賞受賞(3日) 5月 休館日改定(月曜日休館を廃止し、元旦より開館へ)、料金体系改定 (大学生料金を一般料金と分離し、高校生以下無料に)、開館時間変更(午前10時から午後6時まで)
9月	インターネットにウェブサイト開設
1997年(平成9年)7月	美術館南北の市道の愛称を「美術館通り」、「いのくま通り」と設定
1998年(平成10年)11月	建設省設立50周年記念「公共建築百選」に選出
2001年(平成13年)11月	香川県教育文化功労者受賞(1日) 開館10周年を迎える
2003年(平成15年)11月	生誕100周年記念猪熊弦一郎回顧展開催(23日)
2011年(平成23年)11月	開館20周年を迎える
2016年(平成28年)11月	開館25周年を迎える

猪熊弦一郎

1902年、香川県高松市に生まれ、旧制丸亀中学校(現丸亀高校)卒業。その後上京し、東京美術学校(現東京藝術大学)に進学、藤島武二教室で学ぶ。1938-40年、パリに遊学、アンリ・マティスに学ぶ。戦後は、三越包装紙「華ひらく」のデザインや、国鉄上野駅(現JR上野駅)の壁画《自由》を手がけた。1955年にニューヨークに渡り、以降約20年間、同地を制作の拠点とする。1975年からは東京とハワイで制作を続けた。1991年、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館開館。1993年、90歳で死去。

■作品リスト

1 楽しい家族 Happy Family 1989 アクリル・紙 75.9×58.0	2 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 壁画案(No.2) Drawing for the Mural of MIMOCA 1990頃 インク・紙 11.5×20.7	3 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 壁画案(No.23) Drawing for the Mural of MIMOCA 1990頃 インク・紙 11.5×20.7	4 クリエティブプラザ Creative Plaza 1990頃 インク・紙 23.0×41.2	5 自画像 Self-portrait 1921 油彩・カンヴァス 60.5×50.2	資料1 猪熊弦一郎の直筆(美術館は心の病院) Autograph by Genichiro Inokuma (An Art Museum is a Hospital for the Heart) 【凡例】 作品番号 タイトル Title 制作年 材質・技法 サイズ(縦×横)cm
---	---	--	---	--	---